

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に伴う

外来がん薬物療法を受ける患者・家族への看護実践の手引き

（第 1.0 版）

一般社団法人 日本がん看護学会

本手引きは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行時に、外来がん薬物療法を受けている患者やその家族の看護に携わる看護職やがん相談員を対象とし、がん患者やその家族が安心・安全に療養生活を送れるために必要な情報（感染流行時の感染予防方法を含めた患者の生活上の注意点・家族が注意すること・治療計画の中止延期や開始継続に関する不安に配慮すべきこと・発熱時の対応など）を提供するための手引きです。

本手引きは現時点で報告されている情報から可能な限りコンセンサスを得た情報を根拠としています。したがって、感染拡大の状況や地域、施設によって、適応範囲が異なることにご注意ください。

<作成>

日本がん看護学会災害対策委員会

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に伴う外来がん薬物療法を受ける患者への情報提供の手引き
作成ワーキンググループ（WG）

■災害対策委員会

渡邊知映（昭和大学保健医療学部看護学科）

渡邊眞理（横浜市立大学医学部看護学科）

今津陽子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）

■WGメンバー

笠谷美保（千葉労災病院）

中信利恵子（日本赤十字広島看護大学看護学部）

村松真実（新久喜総合病院）

加賀美千津（高山赤十字病院）

天野薫（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

■作成協力

日本がん看護学会特別関心グループ（SIG）災害がん看護、がん化学療法看護

■医学監修

石川敏昭

（東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 総合外科学分野/

東京医科歯科大学医学部附属病院 消化器化学療法外科）

■目次

Q1. がん薬物療法中の患者さんにおいて、新型コロナウイルス感染症 流行時の生活で注意してほしいことはなにか	1
Q2. がん薬物療法中の患者さんと同居する家族において 気を付けてほしいことはなにか	5
Q3. がん薬物療法中の患者さんと同居する家族に、 新型コロナウイルス感染が疑われた場合、気を付けてほしいことはなにか	9
Q4. 感染に配慮した待機場所をどう確保するか	11
Q5. 患者さんの不安が強い時に配慮すべきことはなにか： 治療計画における変更/中止について	13
Q6. がん薬物治療中の患者さんから発熱したと相談を受けた。 どうすればよいか (発熱性好中球減少症 (Febrile neutropenia: FN) か、COVID-19 か)	15

■更新履歷

更新日	版	更新内容
2020.6.6	第 1.0 版	—

Q1. がん薬物療法中の患者さんにおいて、新型コロナウイルス感染症流行時の生活で注意してほしいことはなにか。

がん患者さんにおける COVID-19 の罹患リスクや重症化のリスクに関する正確な情報は限られています。2020 年 2 月 28 日に発表された”Report of the WHO-China Joint Mission on Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)”¹⁾によると、2020 年 2 月 20 日時点の中国では、検査室で感染が確認された症例の死亡率は 3.8%でした。このうち、併存疾患のない症例の死亡率は 1.4%でしたが、がんを併存疾患とする症例の死亡率は 7.6%で、心血管疾患 (13.2%)、糖尿病(9.2%)、高血圧(8.4%)、慢性呼吸器疾患(8.0%)とともに高いと報告されています。がん薬物療法中の患者さんは免疫状態の低下が関与して COVID-19 に罹患した場合、重症化しやすいとされています²⁾。

そのため、COVID-19 の流行時において、人と人との接触の機会を避け、COVID-19 に罹患しないようにする必要があります。看護師は、がん薬物療法中の患者さんに対し、感染予防のための教育的支援を行うことが重要になります³⁾。感染予防対策として、以下のことを患者さんと確認してみましょう。

感染予防の具体的方策

- ・こまめに石鹸と流水による 30 秒の手洗い、もしくはアルコール手指消毒剤（エタノール濃度 60～90%、イソプロパノール 70%を推奨）による手指衛生を行う³⁾⁴⁾⁵⁾。

 - 手洗いの手順¹²⁾ <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000593494.pdf>

- ・外出先から帰宅したら、手指と顔を洗い、できるだけすぐに着替え、シャワーを浴びる⁴⁾。

- ・できるだけ自宅で過ごし、不要不急の外出を控える。地域の感染状況に注意し、特に感染が流行している地域への移動は控える⁴⁾。

- ・他者とできるだけ 2m（最低 1m）の身体的距離（physical distance）を確保する²⁾。

- ・3密（密閉、密集、密接）を避ける⁴⁾。

- ・会話をする際は、マスクを着用し、可能な限り向き合って話すことは避ける⁴⁾。

- ・無症状の者からの感染の可能性もあると考え、外出する際はマスクを着用する⁴⁾。

「新しい生活様式の実践例」⁸⁾

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

- ・毎朝、体温測定、健康チェックを行い、⁴⁾ 記録する。特に、発熱、咳、関節・筋肉痛、倦怠感、呼吸困難、そのほかに咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、喀痰、血痰、下痢、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、嘔気・嘔吐の症状⁵⁾の有無とその変化を観察する。

- ・こまめに換気を実施する。2 方向の窓を開け、数分程度の換気を 1 時間に 2 回程度行う⁴⁾。

- ・便座やトイレの床、洗面台などを使用した後の高頻度接触面、よく触れる場所（ドアの

取手やノブ、照明のスイッチ) は、アルコール (70%濃度のエタノールまたは2-プロパノールが望ましいが、60%台でも許容される) や0.05%の次亜塩素酸ナトリウム、界面活性剤含有クロスで拭き取り、消毒する³⁾⁴⁾⁸⁾。

- ・ 仕事をしている場合は、テレワークや時差出勤をすすめ、オンラインで可能なことはオンラインで実施する⁴⁾。
- ・ 高齢者の介護や小さな子供の世話をする場合には、マスクを着用して実施する。感染が疑われる家族の世話は避ける⁴⁾。
- ・ ウイルスで汚染されている可能性がある素手で目や鼻、口の粘膜を触らない³⁾⁴⁾。
- ・ 困ったときに相談できる医療機関の窓口や最寄りの保健所に設置される「帰国者・接触者相談センター」等との連絡体制を確認する³⁾。

通院時に注意すべきこと

- ・ マスクを着用し、可能であれば手指抗菌ジェルを携帯する⁸⁾
- ・ 病院内での待ち時間を短くする¹¹⁾ために、予約時間やその日のスケジュールを確認した上で病院に向かう
- ・ 可能であれば自家用車で通院する
- ・ 交通機関を利用する場合は、手すりやつり革などの高頻度接触面に触れることを避け、下車時には手洗い、あるいは手指抗菌ジェルを使用する⁸⁾⁹⁾
- ・ 病院に出入りする際には、設置されたアルコール消毒などでこまめに手指消毒を行う
- ・ 病院内では、他の患者さんとの会話を避け、距離をとる⁴⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾
- ・ 院外処方がある場合は、病院からFAXを利用して院外薬局での待ち時間を少なくできるように対応する

しかし、COVID-19 に対応し、見通しの立たない生活が続くことにより、身体・精神的ストレス反応が現れることがあります。例えば、感染や死への不安、怒り、他責的・排他的、拒絶、孤立などです⁶⁾。患者さんには、心身のチェックを行ってもらうとともに、以下のような生活上の対処法を患者さんに知ってもらうことも大切になります⁷⁾。

心身の安定を保つための具体的方策

- ・ できるだけ普段の日常習慣を行う。
- ・ 健康的な食生活を送り、水分を適度に摂る。
- ・ 喫煙や過度な飲酒を避ける。
- ・ 自宅でできる運動を行う。
- ・ 読書やジグソーパズル、料理、絵を描くなど、家で楽しめることに挑戦する。
- ・ Web ツールや手紙を使用し、家族や友人と連絡を取り、つながりを維持する。

・ COVID-19 に関するニュースなどメディアの情報に対して敏感になりやすいため、時間を決めて見る。

感染予防および心身の安定を保つために、生活の中でできることを患者さんと話し合ってみましょう。

文献

- 1) WHO : Report of the WHO-China Joint Mission on Coronavirus Disease 2019 (COVID-19).
[https://www.who.int/publications-detail/report-of-the-who-china-joint-mission-on-coronavirus-disease-2019-\(covid-19\)](https://www.who.int/publications-detail/report-of-the-who-china-joint-mission-on-coronavirus-disease-2019-(covid-19))
- 2) CDC : Coronavirus Disease 2019(COVID-19) People Who Are at Higher Risk for Severe Illness.
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/need-extra-precautions/people-at-higher-risk.html>
- 3) WHO : Infection prevention and control during health care when novel coronavirus (nCoV) infection is suspected. [https://www.who.int/publications-detail/infection-prevention-and-control-during-health-care-when-novelcoronavirus-\(ncov\)-infection-is-suspected-20200125](https://www.who.int/publications-detail/infection-prevention-and-control-during-health-care-when-novelcoronavirus-(ncov)-infection-is-suspected-20200125)
- 4) 厚生労働省ホームページ：新型コロナウイルスに関する Q&A（一般の方向け），令和 2 年 5 月 22 日時点版。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_0001.html#Q3-1
- 5) 日本環境感染学会：医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第 3 版。
http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide3.pdf
- 6) 日本赤十字社：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に 対応する職員のためのサポートガイド。
<http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/pdf/新型コロナウイルス感染症%EF%BC%88COVID-19%EF%BC%89に%EF%BC%88対応する職員のためのサポートガイド.pdf>
- 7) Cancer Research UK:Coping with cancer during the coronavirus outbreak- Coping with worry and anxiety.
<https://www.cancerresearchuk.org/about-cancer/cancer-in-general/coronavirus/coping>

国立感染症研究所：新型コロナウイルス感染症に対する感染管理

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9310-2019-ncov-1.html>

- 8) 厚生労働省 HP 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

- 9) CDC Coronavirus(covid-19)

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/index.html>

- 10) 首相官邸 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

- 11) El Saghir NS. Oncology care and education during the coronavirus (COVID-19) pandemic. ASCO Connection (2020).

<https://connection.asco.org/blogs/oncology-care-and-education-during-coronavirus-covid-19-pandemic>

- 12) 厚生労働省ホームページ 手洗いについて

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000593494.pdf>

Q2. がん薬物療法中の患者さんと同居する家族において、気を付けてほしいことは何か

がん患者の家族は、治療中の患者さんの感染を予防することに意識が向いてしまい、家族自身の感染予防まで配慮できないことがあります。がん薬物療法中の患者さんの感染を防ぐためには、家族がウイルスとの接触を避け、新型コロナウイルス感染症に罹患しないように感染予防行動をとることが必要になります。看護師は、家族の生活スタイル（業務内容、勤務地、移動手段、仕事内容、趣味や余暇の過ごし方など）にも留意しながら、家族への生活上の注意点として、下記の内容についてアドバイスを行いましょう。

●家族自身の体調管理についての注意点を伝えましょう

家族自身が体調の変化に気づけるように毎朝の検温測定を行う¹⁾³⁾

十分な休息と栄養をとり、疲労をためない³⁾

持病がある場合は、治療中断を避け、定期的な受診や服用を継続するよう勧める

体調に変化が起きた際には早めにかかりつけ医に相談する

家の中でもこまめにうがい、30秒以上かけて流水と石鹼を用いた手洗いを行う³⁾⁴⁾

●ウイルスを家に持ち込まないことの重要性と、具体策を伝えましょう

患者の家族が一番にすべき対策は、ウイルスを家に持ち込まないことです。感染防止の3つの基本（①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗い）を守ること¹⁾を伝えましょう。

「新しい生活様式の実践例」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

➤ 具体的には次のような対策があげられます。

- ・ 外出時はマスクを着用し、帰宅後は洗面台などに直行し、30秒以上かけて流水と石鹼を用いた手洗いを行う¹⁾²⁾³⁾⁴⁾
- ・ 仕事や通勤などで不特定多数の人に会う際には、帰宅後すぐに着替えたりシャワーを浴びたりし、可能な限りウイルスを室内に持ち込まないようにする¹⁾³⁾
- ・ 洗濯物は、家族自身で洗濯機などに入れ、患者がウイルスに触れる機会を減らす
- ・ 玄関やトイレなどのドアノブ、照明のスイッチ、携帯画面などの高頻度接触面をアルコールまたは濃度0.05%の次亜塩素酸ナトリウムを用いて消毒する³⁾⁴⁾⁵⁾
- ・ 外出時に付ける眼鏡、車のキーなども外出から戻った際に手洗いと同様に流水と石鹼で洗い流す、または消毒液で表面をふき取る³⁾⁶⁾

●家族だからこそ緩みがちな感染対策を意識づけしましょう

- ・ 咳エチケットの徹底¹⁾³⁾⁴⁾
- ・ 食事時の近距離での会話を避ける¹⁾³⁾⁴⁾
- ・ 食器やタオルなどの共有をさける²⁾³⁾⁴⁾

- ・ 同じ食器での食事や飲み物の共有は避ける¹⁾³⁾⁴⁾
- ・ こまめに換気を実施する。2方向の窓を開け、数分程度の換気を1時間に2回程度行う²⁾。

また、喫煙は新型コロナウイルス肺炎重症化の最大リスクです⁸⁾。家族は家での喫煙を避けるとともに、できる限り禁煙を勧めましょう。

●患者さんの感染リスクが高い時期（白血球が最も低下しやすい時期）を伝え、その時期に留意すべき感染対策や生活上の注意について説明しましょう。

今まで行っていた下記のような感染対策は継続して行います。

- ・ こまめな手洗い、うがいを行う⁹⁾
- ・ 調理をする際には手洗い、器具の衛生をこころがける
- ・ 作り置きを避け、生野菜はよく洗い、新鮮なうちに食べるようにする⁹⁾
- ・ ペットの世話は家族が担当する⁹⁾

それに追加する行動として新型コロナウイルスの家庭内での感染対策を説明します。

- ・ 家庭内でも患者との距離を十分にとる¹⁾³⁾⁴⁾⁶⁾⁸⁾
- ・ 食事は対面を避け、食事中的会話は控えめにする¹⁾³⁾⁴⁾
- ・ 食器、タオル、衣服などの共有をしない²⁾³⁾⁴⁾
- ・ 会話をする際にはマスクをする¹⁾³⁾⁴⁾
- ・ 各部屋の換気を定期的に行う¹⁾²⁾³⁾⁴⁾⁶⁾
- ・ 便座やトイレの床、洗面台などを使用した後は高頻度接触面をアルコール、または、濃度 0.05%の次亜塩素酸ナトリウムを用いて拭き取り消毒するなどの対策も行います²⁾³⁾⁴⁾。

●家族の付き添いは避けて一人で来院することが原則です。

患者さん一人で来られない場合は、患者さんの通院に付き添う際の注意点について説明しましょう

- ・ マスクを着用し、可能であれば手指抗菌ジェルを携帯する¹⁾
- ・ 付き添いは少人数の家族が行い、可能な限り人との接触を少なくする⁶⁾
- ・ 家族自身の体調がすぐれない時は、他の家族と交代するか、タクシーなどを上手に利用する⁶⁾
- ・ 病院内での待ち時間を短くする⁶⁾ために、予約時間やその日のスケジュールを確認した上で病院に向かう
- ・ 可能であれば自家用車で通院し、乗車中はお互いのスペースをとって座り、窓を開けて換気を行う
- ・ 交通機関を利用する場合は、手すりやつり革などの高頻度接触面に触れることを避け、下車時には手洗い、あるいは手指抗菌ジェルを使用する¹⁾³⁾

- ・ 病院に出入りする際には、設置されたアルコール消毒などでこまめに手指消毒を行う
- ・ 病院内では、他の患者さんとの会話を避け、距離をとる¹⁾²⁾³⁾⁵⁾
- ・ 家族同士で話をしたい時には、少人数で換気のよい場所で適切な距離をとる³⁾⁴⁾
- ・ 可能であれば、家族は患者さんの治療終了まで人の少ない待機場所で過ごす
→ 家族が患者さんと離れて過ごせる時間でもあり、双方の気分転換にもなることを伝える
- ・ 院外処方がある場合は、病院から FAX を利用して院外薬局での待ち時間を少なくできるように対応する

● 家族自身の心身の健康を保つために役立つ情報提供や心配りを行いましょう

- ・ 患者さん自身でできることは自分で対処してもらい、家族自身も患者さんと接触する時間を短くするよう説明する
- ・ 散歩やウォーキングなどを取り入れ、気分転換をかねた体力づくりを勧める³⁾¹¹⁾¹²⁾
- ・ 患者さんと向き合い過ぎず、自分一人の時間も大切にしよう声がけする
- ・ 友人や他の家族とオンラインなどで連絡を取り合うように勧め、家族だけで辛さを抱え込まないように声掛けをする⁷⁾⁸⁾¹²⁾
- ・ 新型コロナウイルスに関する情報を含め、家族の不安や心配に答える窓口などの情報提供を行う¹²⁾¹³⁾

(がん患者さんの家族の不安や心配に関する情報提供リンク)

- 厚生労働省 HP <https://www.mhlw.go.jp/index.html>
- 国立がん研究センターがん情報サービス
<https://gan.joho.jp/public/index.html>
- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) WHO 公式情報特設ページ 迷信や不安に対するアドバイス (Myth-busters)
https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/20200430_JA_mythbusters_Japan_final.pdf
- 日本対がん協会 がん患者・家族の支援
https://www.jcancer.jp/consultation_and_support
- 認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン 「COVID-19 に関するがん患者と家族のための Q&A」 <https://www.cancernet.jp/covid-19-qa>

新型コロナウイルスは、患者さんだけでなく、家族も感染する、感染させてしまう不安をもって生活しています。患者さんだけでなく、家族自身が自分の身を守る対処ができているか、不安を感じていないかを確認し、支援することが大切です。

文献

- 1) 厚生労働省 HP 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html
- 2) 厚生労働省 HP 新型コロナウイルスに関する Q&A (一般の方向け)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html
- 3) CDC Coronavirus(covid-19)
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/index.html>
- 4) 厚生労働省 HP 新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00009.html
- 5) 首相官邸 新型コロナウイルス感染症に備えて ~一人ひとりができる対策を知っておこう~ <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>
- 6) El Saghir NS. Oncology care and education during the coronavirus (COVID-19) pandemic. ASCO Connection (2020).
<https://connection.asco.org/blogs/oncology-care-and-education-during-coronavirus-covid-19-pandemic>
- 7) 日本臨床腫瘍学会 HP 日本癌治療学会, 日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会 (3 学会合同作成) 新型コロナウイルス感染症 関連情報 (一般の方向け)
<https://www.jsmo.or.jp/general/coronavirus-information/>
- 8) 日本呼吸器学会 新型コロナウイルス感染症とたばこについて
<https://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/koronatotabako.pdf>
- 9) がん情報サービス 発熱性好中球減少症
<https://ganjoho.jp/public/support/condition/FN.html>
- 10) 日本感染症研究所 ダイヤモンドプリンセス号環境検査に関する報告 (要旨)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9597-covid19-19.html>
- 11) 日本赤十字社 「感染症流行期にこころの健康を保つために」 シリーズ
http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200327_006138.html
- 12) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) WHO 公式情報特設ページ COVID-19 流行によるストレスへの対処
https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/pdf/Coping-with-stress-print-JPN%20ver.pdf
- 13) 国立がん研究センターがん情報サービス 相談員用、患者支援者用 新型コロナウイルス Q&A https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/covid19.html

Q3. がん薬物療法中の患者さんと同居する家族に、新型コロナウイルス感染が疑われた場合、気を付けてほしいことは何か

家族自身にウイルス感染が疑われた場合には、家庭内での感染を防ぐため、次のように指導しましょう。

- ・ 家族自身が体調の変化に気づけるように毎朝の検温測定を行う¹⁾
- ・ 体調に変化が起きた際には早めにかかりつけ医に相談する
- ・ ウイルス感染が疑われた家族の世話をする人は、できるだけ限られた方（一人が望ましい）にする。がん薬物療法中のがん患者さんは免疫が低下しているため、世話をを行うことはなるべく避ける⁴⁾
- ・ こまめなうがい、手洗いをを行う³⁾⁴⁾
- ・ 感染者と他の同居者の部屋を可能な限り分ける³⁾⁴⁾
 - （別にできない場合には、可能な限り離れて過ごし、カーテンなどで仕切る、枕を反対側にするなど、少しでも空間的距離をとるよう工夫する）
- ・ 部屋の換気を心掛け¹⁾³⁾⁴⁾⁶⁾、定期的に窓を開ける。エアコンに外気導入モードが装備されている場合にはモードに切り替え、空気の流れを作る³⁾
- ・ できるだけ全員がマスクを使用する³⁾⁴⁾⁵⁾
- ・ 食事は一緒にとらない³⁾⁴⁾
- ・ 使用したタオル、下着、洋服、リネン類は洗濯するまでビニール袋に入れて別にし³⁾⁴⁾、可能な限り家族が洗濯する。洗濯は一般的な家庭用洗剤を使用した洗濯機を使用して、洗濯し完全に乾かす⁴⁾
- ・ 食事はデリバリーやお弁当などを利用し、ごみはビニール袋に入れてから捨てる
- ・ 鼻汁や痰などの排せつ物はすぐにビニール袋に入れ、密閉して捨てるとともに、その後は直ちに手を石鹸で洗う³⁾⁴⁾
- ・ 家族で共有するトイレ周辺、机、電話機、TV リモコン、パソコンのキーボードやマウスなどは接触感染につながる可能性がある⁷⁾ため、使用後はアルコールまたは濃度 0.05%の次亜塩素酸ナトリウムを用いて洗浄する²⁾³⁾⁴⁾⁶⁾。可能であれば、使用する際にはディスポ手袋などを利用する³⁾
- ・ 患者さんの病院への付き添いは絶対に行わない。他の人をお願いする

文献

- 1) 厚生労働省 HP 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html
- 2) 厚生労働省 HP 新型コロナウイルスに関する Q&A （一般の方向け）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html
- 3) CDC Coronavirus(covid-19)

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/index.html>

- 4) 厚生労働省 HP 新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での
注意事項

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00009.html

- 5) 首相官邸 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っ
ておこう～

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

- 6) El Saghir NS. Oncology care and education during the coronavirus (COVID-19)
pandemic. ASCO Connection (2020).

[https://connection.asco.org/blogs/oncology-care-and-education-during-
coronavirus-covid-19-pandemic](https://connection.asco.org/blogs/oncology-care-and-education-during-coronavirus-covid-19-pandemic)

- 7) 国立がん研究センターがん情報サービス 相談員用、患者支援者用 新型コロナウ
イルス Q&A https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/covid19.html

Q4. 感染に配慮した待機場所をどう確保するか

新型コロナウイルスの院内感染（患者さんや医療従事者の間での感染）を防ぐために、まずは、医療施設の入り口において、発熱、倦怠感、呼吸困難等の新型コロナウイルス感染を疑う症状がある人を識別し、隔離して医療提供体制を構築することが重要です。

外来化学療法室の待合室では、無症状の新型コロナウイルス感染者からの院内感染を防ぐ対策が重要になります。標準予防策の遵守と共に、高リスクな環境（3密；密閉、密集、密接）を避ける環境を作ることが必要になります¹⁾⁵⁾。

具体的に、以下の点に注意します。

- ・患者さん同士が少なくとも 1m 以上の距離を保てるよう³⁾、待合室の椅子の配置に配慮しましょう。椅子の配置は対面にならないようにしましょう。
- ・十分な換気をしましょう¹⁾³⁾⁵⁾。こまめに窓を開け、換気を行うか、窓がない待合室の場合は、サーキュレーター等の空調設備を使用して換気しましょう⁴⁾。
- ・症状がなくても、入室者全員に常時、適切にマスクを着用してもらいましょう⁶⁾。
- ・近距離での会話は控えましょう。個人用防護具（PPE）が不足する場合の受付業務は、ガラス、プラスチック、ビニールカーテン越しに行いましょう²⁾⁵⁾。
- ・付き添い者による患者さんへの介助が必要な場合を除いて、付き添い者の入室は控えるよう依頼しましょう³⁾。混雑していない廊下や他の待合スペース、自家用車等での待機を依頼します。治療終了後には、患者さんがすぐに退室できるよう、付き添い者に患者さんのおおよその治療終了時間を伝えておくといでしょう。
- ・医師と患者さんの治療計画について情報共有し、1日の治療予約件数や患者さんの治療予約時間を確認しましょう。さらに、外来化学療法室の受付事務と、患者さんの待合室への入室時刻について情報共有し、患者さんの待合室での待ち時間の短縮を図りましょう。
- ・出入り口やトイレのドアノブ、手すり、椅子の取手、机、受付カウンター等、高頻度に患者さんが接触する可能性のある箇所や、体重計等の共用の医療機器・実用機器は、アルコール（70%濃度のエタノールまたは2-プロパノールが望ましいが、60%台でも許容される）や 0.05%の次亜塩素酸ナトリウム、界面活性剤含有クロロスによる清拭で、こまめに消毒をしましょう¹⁾²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾。
- ・試供品（ウィッグや保護剤等、副作用対策に関わる商品の紹介）や雑誌、パンフレット等、不特定多数の人が触れる物や共用物の設置は減らすようにしましょう¹⁾⁵⁾。
- ・人の多い室内での飲食は控えるよう説明しましょう¹⁾。
- ・患者さんの治療室入室時には、石鹸と流水による 30 秒の手洗い、もしくはアルコール手指消毒剤（エタノール濃度 60～90%、イソプロパノール 70%を推奨）による手指衛生を行うよう促しましょう⁴⁾。

文献

- 1) 厚生労働省ホームページ：新型コロナウイルスに関する Q&A (医療機関・検査機関の方向け), 令和 2 年 5 月 22 日時点版
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_0004.html
- 2) 日本癌治療学会、日本癌学会、臨床腫瘍学会 (3 学会合同作成) がん診療と新型コロナウイルス感染症：医療従事者向け Q&A (2020 年 5 月 22 日)
https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa_medical_3gakkai.html
- 3) Infection prevention and control during health care when novel coronavirus (nCoV) infection is suspected
[https://www.who.int/publications-detail/infection-prevention-and-control-during-health-care-when-novelcoronavirus-\(ncov\)-infection-is-suspected-20200125](https://www.who.int/publications-detail/infection-prevention-and-control-during-health-care-when-novelcoronavirus-(ncov)-infection-is-suspected-20200125)
- 4) 日本環境感染学会：医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第 3 版
www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide2.pdf
- 5) 国立感染症研究所：新型コロナウイルス感染症に対する感染管理
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9310-2019-ncov-1.html>
- 6) 厚生労働省ホームページ：新型コロナウイルスに関する Q&A (一般の方向け), 令和 2 年 5 月 22 日時点版
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_0001.html#Q3-1

Q5. 患者さんの不安が強い時に配慮すべきことはなにか：治療計画における変更/中止について

がん患者では新型コロナウイルスの感染リスクが確実に増加するという報告は現時点ではありません。患者さんを感染から守るためにあらゆる手段を講じる必要があることは当然ですが、基本的には通常のがんの診断及び治療に関するガイドラインを遵守することが推奨されています。多くの患者さんでは、十分に計画され、適切に管理されたがん治療を受けることによる恩恵の方が、新型コロナウイルス感染のリスクを上回ると考えられています¹⁾。

患者の新型コロナウイルスへの感染リスクは、地域の感染の蔓延状況、患者の状態や生活環境、院内の環境、通院環境などによって異なります。治療法の選択を行う際には治療の必要性やメリット・デメリットを考慮して決定しますが、新型コロナウイルスの感染流行期には感染リスク回避を目的に治療計画の変更/延期や中止を行うことがあります。以下のような場合があります。

- 1) 通院頻度を下げて通院に伴うリスクを避ける工夫：治療間隔が長いレジメンの選択やオンライン診療、休薬期間の延長、発熱性好中球減少症 (Febrile neutropenia : FN) のリスクを下げるための予防的な G-CSF 製剤投与や抗菌薬投与、減量による有害事象のリスク回避などの検討¹⁾
- 2) 病院滞在時間を短くして感染の機会を減らす工夫：静脈注射薬から経口薬への変更、検査項目の見直し¹⁾

これらの変更を提案されると、患者さんやご家族はがんへの影響を心配します。治療の変更についてどのように説明されているか、どのようなことに不安を感じているのかを尋ね、主治医に確認するうえで患者さんやご家族が質問しやすいように心配ごとの焦点を具体化します。

➤ 「治療を変更/延期することによってがんが進むことが心配」「がん治療を受けるために他の医療機関を紹介されて治療への影響があるのではないか」という心配がある場合

1. 病状に影響が少ないように配慮して治療変更が行われていることや、他施設と協力体制を取り治療継続が可能なように調整している状況を説明することで、患者さんやご家族の安心感につながります。
2. 来院しなくても電話での相談ができるように、がん治療を行っている医療機関の相談窓口の連絡先やがん相談支援センターなどの地域の相談窓口を伝えておくことも大切です。

がん情報サービスホームページ：「がん相談支援センターを探す」

<https://hospdb.ganjoho.jp/kyotendb.nsf/xpConsultantSearchTop.xsp>

➤ 「感染が怖いので通院治療を続けることが心配」という不安を訴える場合

1. 感染予防の方法を伝えること、心配なことや質問があれば、その内容を書き留めておき、通院先の主治医や看護師、相談窓口にご相談できるように説明しておきましょう²⁾。
2. 患者さんが自己判断で治療を延期したり中止したりせず、不安があるときは必ず主治医と話し合うことを伝えましょう。多くの場合、十分に計画され、適切にコントロールされたがん治療を受けることによる恩恵の方が、新型コロナウイルス感染のリスクを上回ると考えられています¹⁾。
3. 患者さんの気持ちに共感し、誠実に治療について患者さんに伝え、主治医と患者さんのコミュニケーションを支援しましょう³⁾。
4. 感染流行期においては、がんの進行状況に応じて治療継続のリスクとベネフィットを見直し、患者さんが大切にしていることやがんの予後を踏まえた上で、治療の選択とこれからの過ごし方（アドバンス・ケア・プランニング）について話し合っていくことが望ましいとされています⁴⁾。一人で答えを出さず通院先の主治医や看護師、相談窓口とよく話し合った上で方針を決定していくことが大切になることを伝えましょう。

がん薬物療法は患者さんの免疫状態を低下させる可能性もありますが、がんの進行そのものが免疫状態を悪化させる可能性もあります。患者さんが自己判断で治療を延期したり中止したりせず、不安があるときはこのような状況下で治療を受けることへの患者や家族の不安について看護師は受け止め、感情の表出を促したうえで、必ず主治医と話し合うようにお伝えすることが大切です。

文献

- 1) 日本癌治療学会, 日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会 (3学会合同作成) がん診療と新型コロナウイルス感染症: 医療従事者向け Q&A
https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa_medical.html
- 2) 日本癌治療学会, 日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会 (3学会合同作成)
がん診療と新型コロナウイルス感染症: がん患者さん向け Q&A
https://www.jsmo.or.jp/general/coronavirus-information/qa_3gakkai.html
- 3) Marron, MJ, et al. Ethics and Resource Scarcity: ASCO Recommendations for the Oncology Community During the COVID-19 Pandemic. Journal of Clinical Oncology
<https://doi.org/10.1200/JCO.20.00960>.
- 4) Masumi Ueda, MD, MA1,2,3; Renato Martins et al/ Managing Cancer Care During the COVID-19 Pandemic: Agility and Collaboration Toward a Common Goal. J Natl Compr Canc Netw 2020;18(4):366-369

Q6. がん薬物治療中の患者さんから発熱したと相談を受けた。どうすればよいか。(発熱性好中球減少症 (Febrile neutropenia: FN) か、COVID-19 か)

COVID-19 の初期症状は多くの症例で発熱、呼吸器症状 (咳嗽、咽頭痛、鼻汁、鼻閉など)、頭痛、倦怠感などがみられ、インフルエンザや感冒に似ており¹⁾、COVID-19 か、骨髄抑制による感染や発熱性好中球減少症 (Febrile neutropenia:FN) か、電話で判断することは困難です。COVID-19 感染拡大が起こっている時期においては、患者さん自身が適切に対処することで、不用意な受診を避けることが感染対策の一つにもつながります。

そのために、発熱がみられたら、直接来院ではなくまず電話をし、どのような治療を行い、どのような症状が出ているか、看護師は患者さん自身で説明できるように指導しましょう。高齢の患者さんなどの場合には、あらかじめ伝える項目を記載した用紙を手渡しておくことも、患者さんの安心につながるようになります。

伝えるべき項目は、医師が COVID-19 か、FN かどうか鑑別するために必要な情報です。がんに関連した症状として発熱が生じやすい患者さんには、その症状の特徴も説明しておく判断しやすくなります。具体的内容としては「治療の内容」「治療からの経過日数」「熱型」「随伴症状」「予防処方薬の内服の有無」「解熱剤の内服の有無」「COVID-19 陽性確定者の濃厚接触歴^{*}の有無」「14 日以内の COVID-19 の流行が確認されている地域への渡航・居住歴、COVID-19 の流行が確認されている地域に渡航・居住していたものと濃厚接触歴がある」「今までの治療と異なる自覚症状」などが挙げられます。

※濃厚接触²⁾ : COVID-19 陽性確定患者の感染可能期間 (発症 2 日前～) に接触した者のうち、次の範囲に該当するものである。

- ・ COVID-19 陽性確定患者と同居あるいは長時間の接触 (車内、航空機内等を含む) があった者
- ・ 適切な感染防護なしに COVID-19 陽性確定患者を診察、看護もしくは介護していた者
- ・ COVID-19 陽性確定患者の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者。
- ・ その他 : 手で触れることのできる距離 (目安として 1 m) で、必要な感染予防策なしで COVID-19 陽性確定患者と 15 分以上の接触があった者 (周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する)

発熱し、主治医などがいない夜間・休日などで受診する可能性がある場合には、通院している病院の相談窓口の連絡先や受診方法などを書いたパンフレット等を用いて説明しておきましょう。厚生労働省によると、がん治療を受けているがん患者さんが COVID-19 に罹患した場合には、重症化する可能性を念頭に置き、がん治療を中断し、COVID-

19 に対応した医療機関への入院を原則とされています³⁾。また、かかりつけではない医療機関に COVID-19 の治療目的で入院することも想定される³⁾ことから、患者さん自身がどのような治療を行っているか、上記の具体的内容に従って説明することで、発熱による患者さんの不安を軽減させ、受診行動がスムーズになり、人との接触回数や診察までの時間を短縮することにつながります。

また、FN 高リスク薬剤使用の患者さんの場合には、主治医とあらかじめ相談し、解熱剤や固形がんの場合に処方される抗生物質などの事前処方、G-CSF の使用など⁴⁾を考慮し、夜間などの急な発熱に対応できる対策をあらかじめ行っておくことも、患者さんの不安を解消することにつながります。

FN を含む発熱を伴う患者に直接接触するケアを行う場合は、COVID-19 の可能性を考え、各施設の COVID-19 対応ガイドラインに準じた予防策、個人防護具（PPE）を装着して行うことが推奨され、FN 診療ガイドライン⁵⁾に準じた適切な抗菌薬治療を開始することとされています⁶⁾。患者さんが外来受診する場合、そして時間外や夜間・休日の電話連絡の場合、ファーストタッチは事務職が主になります。直近の受診歴や事前の電話問診内容を事務職や夜間・救急外来スタッフと情報共有することなど、待機室の環境を調整することで、易感染状態であるがん患者さんが発熱外来で待機する時間を減らすことにつながり、患者さんが安心して受診することができます。

文献

- 1) 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き-第2版-p6
- 2) 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き-第2版-p10
- 3) 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部：事務連絡「新型コロナウイルス感染症に対応したがん患者・透析患者・障害児者・妊産婦・小児に係る医療提供体制について」<https://www.mhlw.go.jp/content/000622010.pdf>
- 4) 日本癌治療学会，日本癌学会，日本臨床腫瘍学会（3学会合同作成）がん診療と新型コロナウイルス感染症：医療従事者向け Q&A「発熱性好中球減少症(FN)の対応について」、https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa_medical_3gakkai.html
- 5) 日本臨床腫瘍学会編：発熱性好中球減少症（FN）診療ガイドライン
<https://minds.jcqh.or.jp/docs/minds/febrile-neutropenia/febrile-neutropenia-front-matter.pdf#search='FN+%E7%99%BA%E7%86%B1%E6%80%A7%E5%A5%BD%E4%B8%AD%E7%90%83'>
- 6) 日本癌治療学会，日本癌学会，日本臨床腫瘍学会（3学会合同作成）がん診療と新型コロナウイルス感染症：医療従事者向け Q&A「発熱性好中球減少症(FN)の対応について」、https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa_medical_3gakkai.html